

めざす児童生徒像 心身ともに自らきたえ、知性豊かな児童生徒

研究主題 児童生徒、教職員の交流を図りながら、
「よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指して」

1 主題設定の理由

第四中学校区の三つの小学校はそれぞれ全校児童数約600名の規模であり、第四中学校においては生徒数900名を超える大規模校である。小中学校四校では、以前より「児童生徒の情報交換会」や「学習指導や生活指導についての情報交換会」が行われ、児童が中学校へスムーズに移行し、安心して生活できるよう環境づくりに努めてきた。また、各地区では中学校の吹奏楽部や合唱部が地域行事の中で演奏に参加したり、多くの生徒がボランティアとして参加したりするなど、交流活動も行われている。地域の方は学区の子どもたちの活躍を楽しみにしており、学校行事や地域行事への関わりも積極的で協力的である。児童生徒や地域・保護者のを含め、学校内外で多くの人との関わりがあり、活気あふれる活動が様々なところで見られるのがこの学区のよさである。

そうした中、これからの時代を担う子どもたちには、他者と協働して課題を解決していくことや確かな学力の習得し活用する力が求められることから、9年間を見通した連携をより一層推進していくことが必要である。

そこで、各学校の実態を考慮しながら、小中学校が「そろえる」「つなげる」活動を吟味し実践していくことで児童生徒の確かな成長につなげていくことが大切である。また、大規模校で人との関わりが多いという特性から、多様な児童生徒を一つにまとめ、よりよい集団をつくることを実践の基盤と捉え、規律の順守や児童生徒の自主的・自立的な活動等への支援を共通実践することがより一層求められる。

以上のことから、児童生徒自らがよりよい学級から学年、さらに、学校をつくり上げようとする意欲と行動力を高める。さらに、9年間を見通して「継続してできること」を基本に、児童生徒を育成を目指していきたいと考え、本主題を設定した。

2 研究のねらい

- (1) 特別活動において、行事や話し合い活動の進め方等を小中共通で設定・実践していくことにより、学級活動や児童会・生徒会活動の活性化を図る。
- (2) 9年間の学びの連続性を重視して「学習の約束」や「共通の授業構成」の検討、授業力の向上に取り組むことにより、基礎的基本的な知識・技能の確実な定着とそれらを活用する力を育む。

3 具体的な取組内容

○2年次の取組

① 学力向上部会

ア ねらい

学力向上部会では、9年間の学びの連続性を重視して、学力の向上を目指している。今年度は、学習の約束を4校で共有させた。また、4校の担当者が集まって学習定着状況調査の結果を分析して、4校共通の課題を見出した。三つの小学校が、共通の課題の解決に取り組むことは、中学校の課題を解決させることにもつながるだろうと考えた。

イ 取組

(ア) 学習の約束の共有

夏季休業日に、4校の学力向上部員が酒門小学校に集まった。子どもたちの学力を向上させるために、9年間の学びの連続性に着目して話し合い、次の点について、4校が共通して実践することとした。

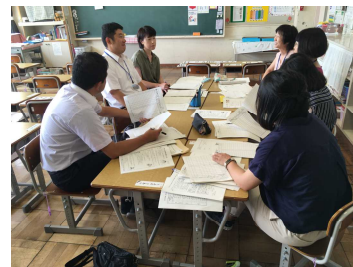
○ミニテストに関すること

- ・点数をとりやすい内容で定期的実施
- ・A5程度、10分で終わる内容

○黒板やノートの使い方に関すること

(算数・数学)

- ・問題 青枠
- ・課題 青下線
- ・まとめ 赤枠



【8月2日 学力向上部員の話合い】

(イ) 学習定着状況調査結果の分析

各校の学力向上部員や該当学年担当者が第四中学校に分析結果を持ち寄った。水戸市総合教育研究所の平戸拓也指導主事の指導を仰ぎながら、4校共通の課題を確認して、その対策のための取組についてまとめた。また、小学校3校が共通して指導することを、中学

校の課題克服につなげていくことの確認もできた。(抜粋)

教科	共通の課題	今後の取組
国語	・ 接続詞	・ 「前の文」「接続詞」を黒板に書き、次の文を考えて書く短作文の練習
社会	・ 地図の活用	・ 白地図の利用 ・ 確認プリントを利用した練習
算数	・ 式と図をつなげる思考 ・ 複合図形の求積	・ 問題に取り組む時間の確保 ・ すき間時間を利用した、1問を解くことの繰り返し
理科	・ 顕微鏡の使い方 ・ 実験の技能	・ 顕微鏡を使う体験の積み重ね ・ 実験の成功体験の積み重ね
英語	・ 書くこと	・ 小学校で自分の名前を英語で書けるように ・ 文章の書き方も慣れさせておく

ウ 今後に向けて

学力向上部員で話し合ったことを各校で実践することで、9年間の学びの連続性を深めることができると考えられる。各校の実践状況を確認したり、現状を見て修正したりするために、各学期1回程度、部員が集まって話し合う機会を設けて、実践を継続させていきたい。

② 規範意識向上部会

ア ねらい

よりよい集団を自ら築く児童生徒の育成を目指し、4校での発達段階を含めた共通理解と共通実践を図る。

イ 取組

(ア) 実態把握と実践の方向性

- アンケートによる実態の把握
- 小中合同の「挨拶運動」の実施
- 9年間を見通した学校生活の約束の検討
- 不登校児童・生徒の解消に向けた取組
- 小中連携による情報の共有
- 道徳的心情・道徳的実践力の育成

(イ) 規範意識向上部会研修会の実施

- 日時：8月1日
- 場所：吉沢小学校図書室
- 内容

- ・ 各学校の現状
- ・ アンケートの内容の検討
- ・ 2・3年次の研究計画の内容と方法及び今後の活動

○ 話し合った結果

「各学校の現状や統一したい約束」の話し合いでは、特に服装等各学校で統一されていない「靴の色や靴下の色」、「女子の髪の毛のしぼり方」等を統一すべきではないかとなった。しかし、中学生になると、規範意識の高まりが見られ、中学校のルールに従うので、特に小学校段階で統一しなくてもよいのではないかという結論になった。

また、中学生が小学校に来て、一緒に挨拶運動をするという方法は、学校が離れているので、挨拶運動後、小学校から中学校に向かうことが難しいという問題が挙げられた。特に、朝の交通量の問題は、安全面でも難しく、今後、実施に向けて課題となっている。さらに、挨拶の推進については、良い挨拶ができれば「掲示物の挨拶の花の花びらを増やす」や「メダルをあげる」等、意識を高めるための取組がなされており、今後も各学校の取組に期待したい。

- 「規律と協働を高める八策アンケート」の活用

番	内 容	平均
1	朝の会の挨拶	4.4
2	授業の始めと終わりの礼	4.2
3	下足箱の靴のかかとを揃える	4.1
4	毎週学年会で次週の確認	4.3
5	他学級や他教科の授業参観	3.3
6	授業開始や終了の時刻の遵守	4.1
7	家庭学習ノートを毎日点検する	4.4
8	毎月の家庭学習計画表の作成	3.6

各学校とも、挨拶や礼、授業の始めと終わりの礼、かかとを揃える等の指導を、意識的に行っている。現状を把握することができたので、今後その他の項目に対しても、具体的に意識をして取り組むようにしていきたい。

規律と協働を高める八策アンケート各学校調査

(令和元年10月まとめ)(数字は4校の平均値)

ウ 今後に向けて

- ・ 不登校児童・生徒の解消に向けた取組では、児童・生徒への働きかけ方や保護者との連携等について研究を深めたい。
- ・ 道徳的心情・道徳的実践力の育成については、「規律と協働を高める八策アンケート」を基にして、各学校での研究の成果等を研修で話し合いをして、継続して研究していきたいと考えている。



【規範意識向上部会研修会の様子】

③ 体力向上部会

ア ねらい

体力向上部会では、「明るく豊かで活力のある生活を営む態度の育成」を目指す。

イ 取組

(ア) 体力テストの結果を踏まえた取組

各校の体力テストの結果を踏まえ、「投力アップのための体づくり」に重点を置き、共通の内容で、小中学校で取り組んだ。

いつ	始業前・朝の会	体育の授業のアップ時	業 間
内容	・片足バランス ・グーパー運動	・鉄棒ぶら下がり ・キャッチボールマスター に類似した運動	・キャッチボールマスター

(イ) 健康・安全に関する自己管理能力を高めるための取組

「一人一人の生活習慣を見直す」ことに重点を置き、自己の健康への関心を高め、改善していこうとする意識の高揚を図るため、4校共通の生活習慣チェックカード（グッドモーニングカード）を作成し各校で取り組むこととした。

いつ、期間	学期1回長期休業明け（5月連休、夏休み、冬休み） 土・日をはさむ1週間
内 容	就寝時刻、起床時刻、朝食摂食、排便、歯磨き 自分が特に頑張る目標を設定して取り組む。
評 価	自己評価（各項目は○×、全体評価は4段階）とする。保護者にも連絡

(ウ) 魅力ある学校行事の工夫についての取組

「体育的・学校行事における児童生徒・教員の交流」に重点を置き、特に、小学校の陸上記録会に向けて、中学校の陸上部と連携し、四中学区全体の体力・技能の向上を図るとともに、児童生徒だけでなく教員の研修の場も設定し取り組むこととした。

9月 25日、26日	小学校陸上競技会に向けた指導者講習会（四中にて）	中学校陸上部員 各小学校教員 15名参加
10月 16日、17日	小学校陸上競技会に向けた練習会（各小学校にて）	吉田小へ、酒門小へ、吉沢小へのべ22名参加



【キャッチボールマスター】



【中学校での教師の講習会】



【小学校での練習会】

ウ 今後に向けて

- ・「投力アップのための体づくり」「生活習慣チェックカード」など、今年度からの新しい試みであった。共通のカードを使うことで児童生徒一人一人の意識が高まり、四中学区みんなで高め合う取組の一つとして、無理なく継続できるよう進めたい。
- ・中学校を会場とした陸上指導者講習会では、中学生と小学校の教員、また、4校の教員の交流の場となった。小学校を会場にした陸上練習会では、各小学校の卒業生が多く参加し、児童生徒の交流ができたことや、成長した中学生の姿を小学校の教員に見せるよい機会となった。中学校に負担がかかったように感じるが、時間を調整して継続できる形をつくっていききたい。

④ 交流活動部会

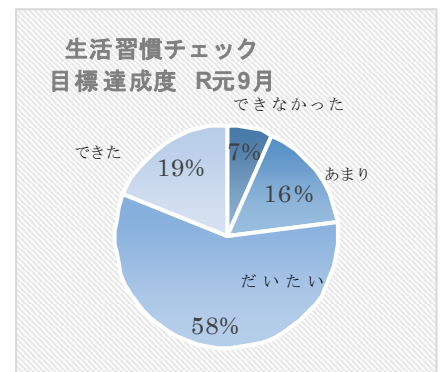
ア ねらい

小中学生の学校間交流活動及び地域との交流活動を推進し、「つなぐ」「そろえる」教育活動を実践する。

イ 取組

2年次は、1年次の実践を引継ぎ、第1回部員研修会で役割を分担し、それぞれの交流活動の担当者を明確にした。

各担当者は、各活動の計画の立案、連絡調整、文書作成・発送、記録等の活動を行うこととした。



○ 2年次の交流活動等

- (ア) 小中スクールリーダー研修会
- (イ) 四中学生徒会による「四中学校区小中学校 めざす学校像」の実践
- (ウ) 「おもいやり」を实践する実現するための「いじめゼロフォーラム」の開催
- (エ) 学級活動の「話し合い活動」の共通実践（話し合い活動の流れの共通化）
- (オ) 小中共通「小中一貫コーナー」掲示物の作成
- (カ) 吹奏楽部の定期演奏会での小学校スクールバンドの演奏
- (キ) 小学校「学びの広場」での中学生の支援・補助
- (ク) 入学式に向けての中学校教師による合唱指導
- (ケ) 小学校陸上記録会に向けての中学生の協力
- (コ) 各地区の祭りでの手伝い（すみかみ・よしざわ・吉田ふれあい・酒門）
- (サ) 水戸黄門漫遊マラソンでの補助
- (シ) 東部公園清掃

- (ア) スクールリーダー研修会
 - 令和元年 7月25日（木）
 - 水戸市少年自然の家
 - 児童27名，生徒19名，引率14名，計60名参加
 - 午前 鉄板焼き（昼食）
 - 午後 話し合い「クローバー（おもいやり）」について



【スクールリーダー研修会】

- (キ) 小学校学びの広場での中学生の支援・補助
 - 7月23日（火）～26日（金）
 - 各小学校の卒業生徒がそれぞれの小学校へ3～5日間訪問
 - 中学1年生のべ249名参加



【学びの広場での中学生の支援・補助】

- (コ) 各地区の祭りでの手伝い
 - 令和元年11月10日（日）
 - 場所 東部公園
 - ボランティア14名参加（希望者）
 - 活動内容 棒付きパン調理手伝い・販売補助



【吉田ふれあい秋まつりボランティア】

ウ 今後に向けて

- ・ 1年次，2年次の活動の評価を行いながら，今後もよりよい活動となるように改善を加えながら活動の充実を図る。
- ・ 地域行事への参加をさらに促進し，地域との関わりをより広げ，深める活動を推進する。

4 成果（進捗状況）と今後の課題

- 小中一貫教育に関する研究を通して，地域や他校の特色や実態を知ることができ，四中学区としての理解を深めることができた。
- 各部会研修会等を通して，教職員間の交流が活性化し「つながり」が強まるとともに，教職員の資質の向上（特に若手）を図ることができた。
- 組織の見直しにより，取り組むべき方向性がより具体的になり，小中一貫教育を活性化することができた。
- 各部会の活動をさらに吟味・検討し，無理なく続けられる小中一貫教育を目指す。
- 一部の職員へ負担が偏らないように全職員が分担して取り組む体制を継続していく。
- 児童生徒数・職員数が多い中で，交流活動や研修会・教科部員会をどのように設けていけばよいかをさらに検討する。